

こえぬまのぶつぐ

## 肥沼信次博士を偲んで

### ヴリーツェンに「Dr.コエヌマ通り<sup>ドクトル</sup> (Dr. Koyenuma Straße)<sup>シュトラッセ</sup>」が誕生

大戦直後の混乱期にドイツで伝染病患者の治療に尽力し、八王子市とドイツ・ヴリーツェン市との友好交流協定締結のきっかけとなった、本市出身の医師・故肥沼信次博士。博士を偲び、ヴリーツェン市庁舎近くの通り（約400m）が「Dr.コエヌマ通り<sup>ドクトル</sup> (Dr. Koyenuma Straße)<sup>シュトラッセ</sup>」と名付けられました。

これは、本市で活動する市民団体「Dr.肥沼の偉業を後世に伝える会」と、現地の住民との交流の中で生まれたアイデアが、実現に至ったものです。10月上旬、ヴリーツェン市のイルム市長により発表が行われ、通りに新しい標識が掲げられました。

イルム市長からは、本市に「世界的なコロナ禍の中、あらためて肥沼博士の偉大さに思いを馳せるきっかけにするとともに、両市の友好関係の象徴のひとつとしたい」とのメッセージが寄せられました。



肥沼博士の顕彰碑（左下）の前を通る「Dr.コエヌマ通り」

<問い合わせ> 市民活動推進部 多文化共生推進課長 中野目

電話 042-620-7437